

その先に見えるもの

平成28年度PTA活動

鳳凰祭制服リサイクル
PTA進路講演会
フードドライブ
秋の交通安全指導
健康の森ウォーキング補助
全国高P連大会・関東高P連大会参加

第66回全国高等学校PTA連合会千葉大会報告

学校・家庭・地域社会のつながり

PTA副会長 田邊 善雄



8月25日から26日、「再発見!愛〜今こそ信じよう愛の絆〜」をメインテーマに、全国から1万人以上の参加者を集め千葉県千葉市の幕張メッセを会場に開催されました。

森田健作千葉県知事の「母親の愛があるからこそ今の私がある」という力強いあいさつなどの開会式を経て、基調講演として「高校生の自立を支援するPTA活動のあり方」を演題に千葉敬愛短期大学学長の明石要一先生の講演を聴き、「進路指導とPTA」をテーマにした第2分科会に参加しました。

基調講演では、親族や地域の関わりも少なくなる中で、「家風と校風、地域色」を子供に植え付け、自尊感情を高めていくことが必要との話があり、学校・家庭・地域社会が一体となったPTA活動が必要だと感じました。

「生徒と家庭と学校と」

PTA会長 切刀 稔



日頃よりPTA活動に対し、ご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今年は甲府で関東地区高P連山梨大会が開催され、西高としても役員さんはじめ大勢のPTAの方々に、平日の開催にもかかわらず二日間で三十数名のご協力をいただき誠にありがとうございました。今回、子どもたちだけでなく保護者の皆様のままとまりの良さ、積極性にも改めて驚かされたところでした。

「チーム西高」この言葉は決して子どもたちと先生方だけのものではなく、保護者も含めて成り立っております。伝統校であり進学校でもありながら、風通しの良い開かれた校風は、生徒と家庭と学校の三者の良好な関係があってからこそだと思っております。子どもたちを中心として甲府西高が「チーム西高」としてさらに盛り上がっていけるよう、今後ともPTAの皆様のご協力をお願い致します。

第62回関東地区高等学校PTA連合会大会山梨大会報告

大村先生をお迎えして

PTA副会長 中込 元博



7月8日〜9日の日程で「自立〜たくましく、しなやかに〜」のメインテーマのもと、3,000名近い参加者がこの山梨の地に集い本大会が開催され、本校PTAも日頃培ってきたチームワークを存分に発揮して大会の運営に協力させて頂きました。初日の小瀬武道館を会場とした全体会では、ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生の「私の半生を振り返って」を演題とする記念講演が行われ、「至誠天に通ず」など先生をノーベル賞受賞に導いた実体験に基づく数々の言葉に、多くの参加者が熱心に聞き入っていました。2日目の分科会は甲府市と笛吹市の各会場に分散して開催され、山梨は第5分科会として支援学校教育について講演及び情報交換会を担当しました。最後になりましたが、本大会のシンボルマークとして本校生徒の作品が採用されたことも併せてご報告させて頂きます。

学・医学賞を受賞された大村智先生の「私の半生を振り返って」を演題とする記念講演が行われ、「至誠天に通ず」など先生をノーベル賞受賞に導いた実体験に基づく数々の言葉に、多くの参加者が熱心に聞き入っていました。2日目の分科会は甲府市と笛吹市の各会場に分散して開催され、山梨は第5分科会として支援学校教育について講演及び情報交換会を担当しました。最後になりましたが、本大会のシンボルマークとして本校生徒の作品が採用されたことも併せてご報告させて頂きます。

大会シンボルマーク

子どもも大人も関係なく協力し一つになってほしいという願いを込め、包み込むような大きな葉を描きました。またPTAの文字に山梨県や富士山を配し、隣に大きなブドウを描くことで、心豊かな若人がのびのびと育つことのできる山梨の土地を表しました。

3年2組 藤田 奈津子



大人としての高校生

校長 斉木 邦彦



選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられ、7月に実施された参議院議員選挙では、高校3年生の約2割の生徒が対象となりました。これからの時代を担う若者の声が政治に反映されるのは望ましいことで、高校においてはこれまで以上に政治的教養の育成が求められているところです。

学校や家庭、地域社会など日常生活の様々な場面で、課題の解決に向けて自分の意思をきちんと示した上で合意形成に積極的に関わっていく、そういう機会を持つことが大切です。学校では生徒同士の協働学習を取り入れるなどして毎日の授業の充実を図っておりますが、何より生徒にとっての身近な大人である教員が、良識ある大人、社会人として生徒に接していかなければならないと考えます。

ご家庭でも是非、お子さんの声を丁寧に聞いていただきたい。そしてその上で、保護者の率直な気持ちを伝えていただきたい。このバランスをとることはたいへん困難なことではありますが、最も大切なことだと思います。

西高の parents & teachers

ウォーキング大会

保健体育委員長 切刀 潤

10月12日、少々肌寒い朝でしたが日中は気温も上がり、すばらしい天候のもとで第20回目となる健康の森ウォーキング大会が実施されました。今年度は、学校側の多大なるご尽力によりコースの一部変更が行われ、生徒の安全性の向上が図られました。

スタートからゴールまでの間、先生方や多くの保護者の皆さんの温かな声援は、子ども達の大きな励みになったことと思います。また、全行程15.2kmを、「ただひたすら走る・歩く」あるいは「仲間とゴールを目指す」などのそれぞれの体験の中で、生徒達は様々なことを考え、感じたことでしょう。この大会での体験が、生徒達のさらなる成長につながることを期待しています。



ゆずる気持ちの大切さ

生徒指導委員長 中村 昭宏



交通事故・違反「0」運動の活動で、朝の通学時間に街頭指導を行いました。9月に入って台風や秋雨前線等の影響で雨の日が続いている中での街頭指導の実施となりました。今回の指導で思うことは、特に自転車通学をする生徒には「自転車も車と同じ車両」であり、通行中の歩行者への「ゆずる」気持ちを持って通学してほしいということでした。特に雨の日は視界が悪くなることから、自転車運転者が歩行者優先で通行することが大切です。最近では自転車と歩行者による事故が増加しています。御家庭内でも自転車通学時の安全、歩行者に対しての「ゆずる」気持ちについて話し合っただけだと思います。

わが子の進路と向きあって

進路福祉委員会 網野 万里子

保護者を対象としたPTA進路講演会を8月20日に開催しました。この講演会は年次にかかわらずすべての保護者が西高の現状や傾向などの身近な話が聞けるという特徴があります。

本年度は午前開催、2・3年の1部・1年の2部と2部制にしましたが合計231名と多くの方にお集まりいただきました。冒頭「焦ってきた時に大事なものは家族の支え」という話がありました。親は毅然と子供の進路と向きあい、しっかりと支えてあげないといけないと思いました。



授業公開で思う事

1年次副部長 河埜壽美子

どの教室の後ろにも、入りきれない程の保護者の方達が我が子の授業を静観する姿を見て、関心の高さに驚きました。生徒達は参観という事にとらわれず、集中して授業に参加していました。参観した授業では、グループの中で教え合いがあり、積極的に助言し合う姿に「皆すっかり西高生!」と安心しました。その積極参加型の授業を支えるのは、ご指導くださる先生方が綿密な単元計画を立て学力向上の為に尽くして下さっているお陰だと思いました。子ども達が夢を描き希望に向かって学校生活をエンジョイしている姿を見て、家庭でもしっかりサポートしていこうと改めて思う良い日となりました。

フードドライブって?

3年次副部長 渡邊 次朗

8月20日、保護者対象のPTA進路講演会の会場入り口で家庭の食品を持ち寄る『フードドライブ』を行いました。

多くの保護者の皆さん、そして先生方が缶詰やレトルト食品、お菓子等を持参、その日だけで段ボール7箱。後日、生徒から集めた食料と共に生徒会がNPO法人「フードバンク山梨」にお届けし、支援が必要なご家庭に役立てられました。

昨今、身近な社会問題になっている課題に実際に携わることは、社会を意識した子ども達の成長に必要であることを私達親も教えられた良い機会でした。この活動が西高内で恒常的に行われることを願うとともに、このような機会を全面的に支援してくださる先生方に心から感謝した活動でした。



成長を見つめて

部活動サポート

成長を感じて

3年次保護者 新田 礼子

娘は放送部で、年に3回大会に参加していました。その度に締め切りに追われながら、朗読の作品や映像制作のテーマの選定に迷ったり、ドラマの脚本のアイディアが浮かばなかったりして、勉強との両立、課題の提出も加わり、忙しい毎日の連続でした。親としては、健康面に気を配り、気持ちだけでも楽になるような言葉かけを心がけました。そんな中でも挫折することなく全国大会まで出場できたのは、先生方の的確なご指導と放送部の皆さんの抜群のチームワークの成果だと思います。ひやひやすることもありましたが、1つの大会が終わる毎に、娘の成長が感じられたのは嬉しいことでした。



想定外でも・・・

3年次保護者 大野智恵子

新入部員二人。2年次には一人退部。仲間が欲しくて入部したバレー部。息子にとってまさに想定外でした。部活がつまらない、好きな野球部に入れば良かった。成績も下がる。そんな葛藤をしながらも、部活を続ける息子に不安を抱きつつ、三年間公式戦には必ず応援に行きました。最後のインターハイが終わり、後輩から贈られた色紙に添えられた沢山の写真。その中には親の知らない息子の笑顔が溢れていました。同期はいなくても原動力となった素晴らしい後輩の皆様に、息子も私も感謝せずにはいられません。部活辞めたら?と勧めた時、息子が言った「後輩みんないい子だから」という言葉を思い出しました。



制服リサイクル

女性部長 寺井 由記

新しい制服になって早4年。鳳凰祭での「制服リサイクル」が1年ぶりに復活しました。まだ品数は少なかったのですが、当日は根強いファンの保護者の方々に多数お見えいただき、15,000円の売り上げを達成することができました。

ご協力いただきました売上金額全額を、高P連を通じて、熊本の震災復興支援目的としまして寄付させていただきました。

「リサイクルの会場をもう少しわかり易い所にした方がよいのではないかしら」などお手伝いいただきました保護者の方々からのご意見も踏まえながら、物があふれる時代の中でもこの「制服リサイクル」はこれからも引き継がれていって欲しいと思います。

